

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第96号 2022年9月

発行人：川崎 秀一 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684
ホームページURL：http:// me96tomon-waseda.la.coocan.jp/

第23回定時総会を開催

2022年7月17日(日)、ホテル雅叙園東京で第23回定時総会が54名の参加者の下、開かれました。

当日は甲斐克則早稲田大学理事、藤本さつき東京都23区地域コーディネーター、金森捷三郎東京都23区支部長、三国誠目黒区都市整備部みどり土木政策課施設計画課係長、戸木田理沙および上野真由同課係員にご出席いただきました。

午後4時、田添麻友幹事の司会により開会、早稲田大学および東京都23区支部の来賓3名を紹介。続いて後藤会長より挨拶があり、この総会をもって会長の任期が満了となることの報告、これまでの運営に対する協力への感謝が述べられました。



甲斐来賓

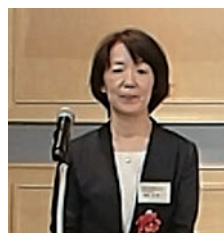
続いて来賓の甲斐理事より挨拶がありました。甲斐理事の挨拶を通じて、先般行われた早稲田大学総長選挙について説明がありました。総長選挙では、田中愛治氏第17

代総長が再選を果たし、

2022年11月より同氏が2期目4年の総長を務める予定です。関連して、総長が特に力点を置くライバル校を凌ぐ大学の地位向上、幅広い早稲田スポーツの活躍等の母校の力強い近況を伝えていただきました。

総会の議長には吉本相談役が選出され、(1)2021年度事業報告、(2)2021年度決算報告、(3)監査報告が報告され、満場異議なく了承されました。続けて、(4)2022年度事業計画(案)、(5)2022年度予算(案)および(6)2022年度役員人事(案)が提案されました。役員人事(案)については、今回の総会をもって任期満了となる後藤会長に代わり、新たな会長を選出するにあたり、会長推挙委員会による選出の過程と、これまでの経緯が説明されました。そして、品格、人望に優れた川崎秀一氏(昭和45年 法)が新会長となることが発表され、満場一致で議案(4)、(5)および(6)が一括承認されました。

すべての議事が終了した後、川崎新会長の挨拶(別掲)、来賓の藤本東京都地域コーディネーターおよび金森東京都23区支部長より挨拶がありました。



藤本来賓



金森来賓

藤本東京都地域コーディネーターから大学の先手先手のコロナ対策についての説明がありました。

金森支部長より、23区支部の取り組みおよび「校友会は寄付金募集だけではなく、OB・OGの人材の活用」の提案を行ったとの説明がありました。



川崎新会長(左)後藤会長(右)の引継ぎ握手

休憩をはさんで、第2部の講演が行われました。



「めぐろのサクラ再生プロジェクト」と題して、区内の桜の保全に取り組む目黒区都市整備部みどり土木政策課施設政策係の戸木田様がプロジェクターを使って紹介しました。

都内でも有数の桜の名所を持つ区の、その名所の紹介から、保全、害虫対策、桜守活動、区にある桜の種類を話して頂きました。桜は中国外来害虫の「クビアカツヤカミキリ」が今最大の脅威だそうで、それは名前通りに首が赤いカミキリです。駆除の為に区は情報を求めており、会員からも、それに関して活発に質問がありました。



講演後に川崎新会長から区の「めぐろのサクラ基金」への寄付金贈呈と、区長からの感謝状贈呈が交換されました。

第3部では、田添麻友幹事の司会で初参加会員の自己紹介と一問一答が、新会長も掲げられた通りに、「明るく楽しく元気よく」おこなわれました。

第2部までに予定より半時間ほど後ろ倒しでしたが、第3部も巧みな司会で滞りなく終えました。



左より、伊東、内山、佐藤、伊藤、大島の各氏

最後に、松田哲也会員指揮の校歌斉唱、金井幹事長による中締め挨拶があり、一本締めで終了しました。

(細谷 記)



<川崎新会長挨拶(要旨)>

これまで皆様が築き上げて来た本会を持続的に維持発展させていく必要があると思うと身の引き締まる思いです。会員皆様のご支援がなければ会長の職は務まらないと思っております。何卒、倍旧のご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

今年で23年を迎える本会は、会員数の減少と平均年齢の高齢化に直面しております。各部会活動が楽しく有意義でなければならない事、また、その楽しさを多くの方に知って頂く事、つまり啓蒙活動や広報宣伝活動により会員予備軍である校友の皆さんに本会の存在を知って頂く事が必要であります。その結果として、本会に対する興味を覚え魅力を感じて入会して頂く事が理想であります。一方、早稲田で学んだと言う絆で繋がれた当会は老若男女と言いたい所ですが圧倒的に男性会員の人数が多いのであります。是非、女性会員の増加特に50歳から70歳の会員を増やしたいと思っております。これが、持続可能性の重要な要素の一つでもあると思います。

この2～3年コロナ禍と言う事もあり、残念ながら対面での会合が殆ど出来ずに、部会活動が停滞しておりました。しかし、その中でも知恵を絞って対応してきた部会もあります。囲碁部会、Zoom茶話会などはオンラインで、また、俳句部会は郵送方式で従来通り堅実に活動しております。コロナ禍の制約の中でありましたが、スポーツ観戦部会も野球、ラグビーなどの早慶戦の応援を行いました。また、ウォーキング部会も昨秋より活動を再開しました。これからも、各部会がそれぞれ工夫して会員の参加を求めて活動を活発化させて頂きたいと思います。

私の経験から、社会人として多忙を極めている時期には、なかなか地域社会との交流の機会を持てないでおりました。目黒稲門会に入会して良かった事の一つは地域社会との関係を復活出来た事と思っております。現役生活から離れて余裕が持てる方には是非入会頂ければと思っております。

目黒稲門会の目的は、「会員相互の交流、活動を通じて学び、楽しむと共に、引き続き早稲田大学の一層の発展を応援し、目黒区に貢献します」となっております。今後もこの目的が達成されるべく皆様と一緒に色々な活動を行って行きたいと思っております。これからも、後藤前会長、吉田元会長の「明るく、楽しく、元気よく」と言う活動モットーを守り、楽しい会に行きたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位のご健勝とご隆昌を祈念致します。

眞仁田初代会長を悼む

本会顧問で初代会長の眞仁田 勉氏が2月15日、91歳でご逝去されました。故人を良く知るお二人の方から追悼文をお寄せいただきました。

浅海敏之（昭和34年 政経）

2007年（平成19年）は早稲田大学創立125周年にあたる。大隈重信先生は人間は125歳まで生きられると言われていた。大隈講堂の高さは125尺（38m）ある。創立125周年を盛大にしたいと、法人100億、個人100億の募金目標をかかげて、募金委員長に口元周作さん（西原総長の秘書課長を8年間、ラグビー部の後輩）が任命された。東京23区にまだ、稲門会のない区があった事がわかり、募金を集める意味でも、すぐ作って貰いたいと、私にも、手伝って欲しいと、連絡をいただき、指定された1999年（平成11年）9月23日大隈会館に何うと、私を含めて22名の方々が集まった。2,3回会合を開いてそれぞれの役職を決めました。最初の役員会を下目黒住区センターで開き、その席上で、会長はどなたかいらっしゃいますかと、伺ったところ、中沢信平さん（昭和27年政経、区会議員）が、鈴木都知事時代に副知事をされた眞仁田 勉さんが、目黒区に住んでいらっしゃいますが、と、推薦してくださった。皆さん大賛成ということになった。眞仁田さんは、当時、東京都競馬の理事長をされていて、事務所は、日本橋の高島屋の前（明治屋側）のビルだったので、当日、高島屋の前に集まり10名の役員の皆さんでお伺いした。勿論、中沢さんが、根回ししてくださったので、喜んでお引き受けいたしますと、お返事をいただいた。次回の役員会から、眞仁田会長を中心に、ひと月1回開催されることになった。

眞仁田会長4年目の時に、会長から、電話いただき、今、寿司八（目黒通りの消防署の筋向い）に来ているんだけど、相談したいことがあるので、来て欲しいと。学校サイドから、東京23区を、支部として、扱いたいと。その支部長に眞仁田会長が選任されたと。任期は1年間。そこで、岩崎事務局長は、目黒と23区の両方の仕事をお願いするのは、大変ではないだろうか。23区事務局に、別の人をお願いしたいが、どうだろうか。確かに岩崎さんも、樋口前事務局長から、受け継いだばかりだし、そうですね、会長、どなたか、いらっしゃいますかと、伺った。囲碁部会で一緒の保井 正さんをお願いしたいと思うが、どうだろうか。私も保井さんとは、中目黒小学校も、学院もクラスは違いましたが、同級生でしたから、是非

お願いしよう。ということになり、会長みずから、保井さんをお願いの電話をされた。保井さんも承諾され、次回の役員会で任命された。眞仁田会長も、目黒稲門会の会長の任期を1年間延長され5年間おつとめくださいました。本当に、お世話になりました。ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

保井 正（昭和34年 政経）

眞仁田 勉顧問の訃報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。

東京都23区稲門会初代支部長の眞仁田目黒稲門会初代会長より、夜にお電話をいただきました。東京都23区支部の事務局を手伝ってもらえないかと。当時岩崎正夫（昭和47年）さんが事務局長として頑張っていて、事務局補佐という立場でお願いしたいと。私も理由もわからずお引き受けしました。このことから23年にわたるご厚誼をいただくことになります。

また、目黒稲門会囲碁部会長でしたので開催場所を決めるため、郡山弘文（昭和27年）さんと三人で夏の暑いのに目黒にある暮会所全部を汗拭きふき歩きました。意図する所なく、中沢新平（昭和27年）さんの紹介で下目黒住区センターに決まりました。この二つのエピソードから物事を芯で捉えて、自ら行動する、人使いの上手な方だと思いました。しかも腰に持病を抱えておられました。

稲門祭後の懇親会で、大竹一子（昭和49年）さんが用意してくれた大隈講堂裏の料理屋に20人程が集まった折り、眞仁田さんが踊る様な、舞う様な、目を細めて私達一人一人に杯を傾けて回る姿を見て器の大きい人だと思いました。私にポツリと「稲門会の人達とこんなに親しく出来るとは思わなかった」と。よほど嬉しかったのだと思います。眞仁田さんの背中をみて、この人に恥をかかせてはいけないと一生懸命お仕えすることに決めました、それまでの尊敬の念から畏敬の念に代わっていきました。眞仁田さんは東京都23区支部について緩やかな連携を考えておられて、創立時の基礎固めに私達の協力と努力を期待していたと思います。

目黒稲門会に於いては、創立の熱気に包まれていて何かにつけてよく飲み会を開催しました。囲碁部会が終わると当時のよん月会に合流しました。土川俊夫（昭和41年）さんの馴染みの『寿司八』で眞仁田さんと荒瀬修一郎（昭和28年）さんの政界囲碁談義に興味津々に聞き入りました。とにかく酒を囲んで雑談をすることが大好きで、その博学、蘊蓄に触発されました。

人生のセカンドステージに当たる齢に思いがけない出会いと尊い経験をありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。 合掌

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

俳句部会

第146回「俳句部会報告」

日時 2022年7月11日(月)郵送句会

(順不同)

川井素山	間をとりて砂城陣取る浜日傘
保井寶正	木下闇少女会釈し走り去る
佐久間喬	波を見る女ひとりの浜日傘
丸山酔宵子	喧騒を離れて一人青田風
吉田啓悟	どこまでも明るき水辺半夏生
青木英林	浜日傘褐色の脚視かせて
山本草風	青春の陰が眩しき浜日傘
佐久間たか子	砂日傘真中に犬納まりて
渡辺鯨波	親と子の心の距離や浜日傘
後藤克彦	水打つや風無き路地に人の声
原 晶如	木道の歩荷ただしき息遣ひ
青葉ひかる	花氷今を咲かんと燃え立ちて
永井正孝	玄関にお湿り残す水鉄砲
金森純女	夏至の日にポニーテールの君と逢う

俳句部会長 佐久間 喬

囲碁部会

コロナ禍の下、「呼びかけの碁」と言うネット碁を利用して2021年10月よりリーグ戦を開始し2022年3月にて2021年事業年度は終了致しました。

そして2022年新事業年度は4月より上期リーグ戦を開始致しました。

リーグ戦は3ラウンドに渡る総当り戦で、同じ対局相手に対し3ラウンドのうち2ラウンドを征した者がその対局相手との最終的な勝者とし、その合計の勝敗により優勝、2位、3位を決定します。

上期第1ラウンドは5月に終え、1位は小岩氏、2位は保井氏と永田氏と小倉氏が分け合いました。

上期第2ラウンドは6月から7人で開始し、この原稿を書いている第6週段階で、暫定1位は小岩氏、同2位は私市川、同3位は大久保氏です。

ハンデは各ラウンド毎に調整される為、上位者が下位者に必ずしも勝てるものではなく、だからといって下位者が上位者に勝利するのも簡単なことではありません。

以上の如くコロナ禍の下であっても囲碁部会のリーグ戦は毎週熱い戦いを繰り広げています。

なお、コロナ終息の際は「呼びかけの碁」に加えて毎月の例会を開く予定です。

囲碁に興味のある方、始めてみたい方、腕に自信のある方は市川までご連絡下さい。

囲碁部会長 市川 亘

ゴルフ部会

このところコロナ禍で中止になっていたゴルフ部会を5月31日に3年ぶりに開催する事が出来ました。4組16人の方に参加を頂き、また初参加が4名(内新入会員が3名)、女性も2名参加となり久々にコンペらしい会を催す事が出来ました。コースは千葉の五井にある立野クラシックゴルフ倶楽部、なかなか素晴らしいコースでした。生憎当日は小雨模様の天気でしたが午後からは雨もやみ皆で初夏のグリーンを満喫しました。優勝は狩野氏、準優勝はハンデに恵まれた川崎でした。次回は秋を予定しております。ふるって女性も含め多くの会員の参加を期待しております。



ゴルフ部会長 川崎秀一

麻雀部会

先日、6月20日に定例会を開催しました。コロナ禍の影響で参加者は2組8名と寂しい会となりました。

会場は目黒駅近く権之助坂沿いの「麻雀 華」で、当日12時半から5時前までの4回戦での対局でした。最初の3回戦は50分時間制で卓を変わりながらの対戦。最終局は成績順での1時間の対戦です。

成績は、以下の通り。(敬称略)

優勝 大内、2位 千野 3位 宮村、BB 猪名川
参加賞 川崎、本田、松尾、村上

本会の参加費は1名3,000円で場代、賞品代、飲み物代を含んでいます。

負け代を気にせず、純粹に点数を競う場として対局を楽しむことが出来ます。

昔取った杵柄の方も歓迎ですので、ぜひご参加ください。次回は8月の第3月曜日の予定でしたが、旧盆と重なるため翌週の22日の開催予定です。

都内感染者1万人以上の状況が続いており、予断を許しません。8月上旬には開催の可否を決定する所存です。

麻雀部会長 村上 柊

ウォーキング部会

第149回「大山道を歩く第二回」
(二子新地～溝の口～江田～青葉台まで)

2022年6月21日(火) 参加 11名

行程:二子新地駅(二子の渡し)→二子神社・岡本かの子文学碑(川端康成筆)→大貫病院(岡本かの子実家)跡→高津図書館(国木田独歩石碑)→小山街道ふるさと館→大石橋(二カ領用水)→溝口神社→宗隆寺(陶芸家濱田庄司墓)→溝の口駅→(電車)→江田駅→小黑公園→市ヶ尾横穴古墳群→地藏堂→猿田坂→川間橋(鶴見川)→大難(おうな)の辻→柿の木台・医薬神社→(バス)→青葉台駅

大山道を歩く第二回は、多摩川を渡った先の二子新地から溝の口まで行き、電車で移動後江田から柿の木台・医薬神社まで歩いて、バスで青葉台に出た。



溝口神社にて

二子新地と溝の口間は平らな街道筋に、文学者の記念碑や旅籠に逗留した国木田独歩の石碑など、文化人所縁の足跡が残っており、街道を右に左にとのんびり歩いた。

江田駅からは雨のぱらつく中、坂道を小黑公園まで歩く。この上りでかなり体力を消耗した。小黑公園の先の丘の上から、市ヶ尾横穴古墳群までは一気に下る。古墳時代、市ヶ尾一帯の有力農民が埋葬されたとされる。それら横穴古墳が北と南に分かれて19基も並んでいる様は結構迫力がある。



市ヶ尾横穴古墳群

ここから地藏堂まで下ると、大山道に合流。猿田坂を通り鶴見川にかかる川間橋を渡り、大難の辻から柿の木台へ上る。昔の旅籠跡などがあるのだが、その屋号だけ残っている今様のお店だ。地藏堂下から続く坂道に力尽き、柿の木台・医薬神社で休憩後、通りかかった循環バスで青葉台駅に出て一旦解散した。

ウォーキング部会長 吉野 博明

相続よもやま話 その5

尾崎 充 (昭和63年 政経 公認会計士・税理士)

相続の仕事に関わっていると本当にたくさんのトラブル、間違い、勘違い、あるいは「こうしておけば良かったのに～」と言う様なケースに遭遇します。

相続にまつわるこの様なあるある事例を紹介してゆきたいと思います。

(前回までのあらすじ) 目黒稲子さんは認知症になって高齢者施設に入居しその3年後に老衰で亡くなりました。49日法要等も終わった頃に目黒稲男(目黒稲子さんの弟)さんは品川花子(目黒稲子さんの姉の娘で代襲相続人)さんに相続財産である預貯金の詳細について聞いたところ預貯金の内容を一切開示しませんでした。目黒稲男さんは困ってしまいました。

(その後) 目黒稲男さんは相続財産である預貯金8千万円の入出金履歴を金融機関から取り寄せて調べたところ目黒稲子さんが亡くなる数か月前から約7千万円もの多額の出金があることが判明しました。

この7千万円の所在を品川花子に問いただしても介護や治療費に使ったの一点張りで一向に埒がききません。

目黒稲男さんは致し方なく弁護士を立てて交渉する事を品川花子さんに伝えました。その後も双方で神経を擦り減らす壮絶なやり取りと紆余曲折があった後に品川花子さんは渋々とこの7千万円は自分の通帳に移動したと言う事を白状しました。漸くトラブルは決着したものの目黒稲男さんはすっかり疲れ果てるとともに親戚である品川花子さんとは絶縁状態になってしまいました。もう後の祭りですが目黒稲男さんは何をしておけば良かったのでしょうか? いくつか方法はあると思われますが、例えば法定後見人を立てておけば結論は違ったかも知れません。

(注)ありがたいな事例を架空の話として作成しています。

(教訓) 親戚も お金が絡んで 絶縁に

里山の楽しみ

田島清志（昭和52年 文）

目黒に育った昭和の子には「原っぱ」と呼ばれる草原がそこここにある、東大構内や駒場高校グラウンドの一面には林もあった。アゲハなどの蝶や、セミやトンボ、時にはヒラタクワガタのようなレアな生きものまでいて、自然とともに幸福な子供時代を過ごすことができた。

大人になり、働き盛りになると、いつしか、まわりの緑への関心が薄れ、自宅と会社、仕事場と飲み屋の往復だけになり、気がつくとも身体を壊して病院のお世話になる、というのもよくあるパターンだ。私の場合は、その「お灸」がいささか厳しく、ちょうど2000年、47歳の時に慢性骨髄性白血病で入院することとなった。白血球数が12万6000単位、38度台の熱も出ていた。

どこで人生を過ったのか。入院は3か月。その後は抗がん剤の服用に切り替わり、1年後には会社も退社。そんな中、新聞広告のごく小さな記事が目にとまった。「自然の声がわかる人に」といったフレーズがずっと頭に入って来た。樹木・環境ネットワーク協会というNPO法人の理事長、C・W・ニコルさんからのメッセージだった。

当面やることもないので、「自然」と「環境」の勉強を始め、検定試験を受けた。

合格した折に出迎えてくれた人の中には、ニコルさんの次の理事長、池田武邦さんの姿があった。日本で初めての高層ビル・霞が関ビルや京王プラザホテルを設計された方で、「君のような若い人が来てくれて嬉しい」と肩を抱えて激励してくださった。

ここから私の里山との付き合いが始まった。

私はまだ急な坂は登れないくらいの回復度だったので、まず始めたのは小石川植物園での草取り。そして自然観察会の旗持ち。やがて体力が回復するとともに、いわゆる里山といわれる環境の回復・保全のお手伝いをするに……。

日本の多くの里山は、人が長らく入らなくなったせいで、山へ入る道がササや藪に覆われ、陽が入らない暗く気味の悪い場所になっていた。

だから手入れの最初は、荒れた森に入るための道作りから始めなければならない。絡みついた蔓草を払い、一面を覆っているアズマネザサを刈る。藪にはたいていゴミが捨てられているので、投げ捨てられたビンやカン、古タイヤなどを処理して、ようやく森の姿が見えてくる。そこで初めてこの森をどう

変えていくかという方針が立つ。

針葉樹が多過ぎたり、広葉樹の中でもシラカシなどの常緑樹が多いと森が暗くなりやすいのでバランスをみて間伐していく。そのほか樹が混み過ぎているか、茂みがひどくないか、珍しい樹・保護したい花はないか……などを考えながら、人の手を加え、やっとう暗い森に光が差し、気持ちのよい森へと変えていくことができる。

これらの作業は、基本的にボランティア活動なので、作業をする人に経済的な見返りはない。でも、手入れしたことにより死んだ森が生き生きとした森になれば、それが一番の報酬となる。たとえば、地面まで日が当たるようになると、それまで地下で眠っていた種子が活性化されて春に一斉に花をつけてくれる。金蘭や銀蘭、エビネ、ニリンソウなどが可憐な花を咲かせてくれれば、それまでの労苦も大いに報われるというものだ。

病気のせいで私はいつも半人前のことしかできなかったが、先輩たちの後を追いつつ、東京の町田市や昭島市、神奈川県の下宮、埼玉県の武蔵嵐山などの森づくりをお手伝いし、オリンピック会場にもなった「海の森」での植樹、上野動物公園・クマ舎まわりの植栽整備などさまざまな活動に参加させていただいた。世界自然遺産に登録されてすぐの小笠原諸島、沖縄の山原地方へ観察に行けたのも、私にとっては幸せなことだった。

一時は病気によって人生が暗転したようにも思えたが、そのお陰(?)で子どもの頃から好きだった生きものの世界に「再会」できたのはとても不思議なことに思える。

関わった里山で印象深いのは、長野県黒姫山の麓にある「アフアの森」だ。アフアは、ニコルさんと、山仕事の達人・松木さんが中心になって造った魅力的な森で、マスコミでも何回も紹介されている。そこには私も10回ほど通い、松木さんから森づくり、炭焼き窯作り、疲れない山仕事の秘訣、山で道に迷わないコツ、樹の見分け方と使い方、など多くのことを教えていただいた。

また20年以上通った町田市の里山では、荒れた森が長い歳月の中で、明るく気持ちのよい森へと変わっていく姿をしっかりと見届けることができた。まばらにしか生えなかったニリンソウは今では谷を覆うくらいに広がって、春先には何人もの人が足を運んでくれるようになった。

この森には、今も少なくとも月に3回くらいは仲間が入って手入れを行なっている。活動日には、いつものメンバーの他に、里山体験希望者も加わり、最近では「社会活動」の一環として企業単位で参加する例も増えてきた。

目黒わが町自慢

目黒 川崎真樹子（昭和50年 法）

目黒区目黒の紹介の原稿依頼を仰せつかって改めて目黒の地名の由来を調べたところ、「め」駿馬、「くろ」畔を意味し馬とあぜ道という説と五色不動尊、目黒不動尊に由来するとの諸説あるようです。肝心な目黒区目黒の由来は、荏原郡中目黒村と下目黒村にまたがる地域であり、中目黒にも下目黒にもできず、結局、目黒駅に近いから「目黒」と名付けられたという意外なことを知りました。

そのような地名の歴史に由来するのか、目黒区目黒にある名所としては目黒区美術館だけしか浮かびませんでした。

目黒区美術館は1987年11月15日に開館し、地下1階、地上3階の潇洒な建物で、別棟に区民ギャラリーを併設しています。

コンパクトな美術館ですがエントランス、展示室へと3階までの空間を自然に誘い流れて鑑賞できるように展示しており、企画力も含めて学芸員の方のレベルの高さを感じることができます。

美術館は映画館と同じで通い始めると次々と思うのですが、昨今はすっかりご無沙汰しており、目黒大橋脇の展示開催案内にも心惹かれずに通りすぎるようになってしまいましたが、今でも記憶に残っているのは「線の迷宮ラビリンス」、木下晋画伯のハンセン病の鉛筆画による肖像画、そして文化資源としての「炭鉱」展での山本作兵衛の筑豊炭鉱絵巻、そして震災後に気仙沼のリアスアーク美術館からの借り出しをうけての震災写真です。

常設ではありませんが「めぐろの子どもたち展」も必見です。幼稚園、子ども園、小学校、中学校に加えて特別支援学級のこどもたちの作品も出品されますが、心の煌めきを感じさせてくれる作品ばかりです。

コロナで営業が休止になっているようですが、カフェスペースもありますので、午後のくつろぎタイムにはとても良い場所です。



目黒区美術館

目黒の坂巡り

けこぼ坂 保井 正（昭和34年 政経）

私は昭和11年に今の「けこぼ坂上」バス停留所近くの家で生まれた。駒沢通りに面していて、周りは畑や野原でした。けこぼ坂は正覚寺から中目黒小学校と目黒区総合庁舎の間を通り、祐天寺に上がる坂道で現在も主要な交通路である。「けこぼ」とは両側の土手の法面の赤土のかたまりがザラザラこぼれこの状態を古い目黒の方言で「けこぼ」といい、それがこの坂の名前の由来になったと言われている。



けこぼ坂

私は中目黒小学校を卒業したが、同校は1901年（明治34年）に目黒高等小学校として正覚寺に開校された。2001年（平成13年）に創立100周年を迎えた。目黒総合庁舎は、元々昭和2年に開校した中目黒アメリカンスクールでバブル期に千代田生命本社となり、武蔵野の森をイメージした村野藤吾設計の代表作である。その後目黒総合庁舎となった。今でも中目黒小学校側に8メートル程の高さの石垣が残っているが、アメリカンスクール側にもあって、その台地の上に校舎があった。校舎の中の様子を伺う事は出来なかった。けこぼ坂はその谷間にあり、目黒シティランのスタート地点は謂わばけこぼ坂のへその緒のである。



目黒シティラン

1945年（昭和20年）6月24日の東京大空襲ではけこぼ坂は逃げ惑う人達で溢れていた。私達一家も自転車におひつを載せて代官山の三井別邸の方に避難した記憶が鮮明によみがえる。夜空は照明弾で昼間の如くあかるく、銀紙がひらひらと舞い落ち、まさに地獄の有り様だった。しかし米軍はアメリカンスクールの周囲2キロメートルは爆撃せず、私の家は焼失を免れた。その3ヶ月後に太平洋戦争は終結した。幼少期から昭和の戦前、戦中、戦後、平成、令和と通いながれた坂である。

会員ギャラリー

『小さなバーのピンクの薔薇』 油彩
丸山忠生（昭和44年 法）



自由が丘にある会員制バー「HGA(Healthy Gentlemen's Bar)」には、いつも生き生きとした綺麗な薔薇がカウンターに置かれています。ある時、鮮やかなピンクの薔薇が飾られていて、是非油絵にしたいと描いたF10号の油絵で、HGAのマホガニーの壁に飾ってあります。

持田オーナーは長年製薬会社の営業をし、早期退職で念願のバーを10年前に開業したのです。学生時代からアメリカンフットボールをやっていて、現在も現役正式審判員です。ご興味のある方は喜んでお連れいたします。

『お台場の虹』 写真

山内 宏（昭和56年 教育）



仕事帰りに、たまたまゆりかもめに乗ってお台場で降りました。小雨が降っていましたが、突然晴れ間に、そして虹が出ました。

こんな光景は見たことがないと、感激して撮影しました。

(3年ほど前に撮影)

新入会員



伊藤蔵人（平成14年 法）
（目黒区五本木在住）

五本木所在の法律事務所で執務する弁護士です。区内校友の皆様の交流の輪に加えて頂きたく入会しました。

趣味は管理栄養士の妻との食べ歩きで、区内の美味しいお店での会員の皆様との歓談を楽しみにしています。



内山 信夫（昭和60年 教育）
（目黒区平町在住）

昨年の定年を機に、疎遠だった母校と繋がる道はないか思案の中でご連絡を頂き、志のぶ幼稚園、大岡山小学校、区立第八中学校と東横百貨店で人格の

殆どを形成した私は早速入会致しました。

以後宜しくお願い仕り御座候。あなかしこ



佐藤 勝彦（昭和41年 理工）
（品川区小山在住）

実は、早稲田生まれ早稲田育ちで、商社勤務の為、香港、スイス、ドイツ、英国と4カ国14年間住んだ以外は早稲田に在住していました。一昨年、孫たちの住む目黒近辺に隠棲の地を求め引っ越して参りました。今回は金井幹事長が何とクラスメートというご縁もあり、入会させて頂きました。

どうぞ、皆さんと良きご縁を結ばせて下さい。よろしくお願い致します。



伊東 佳行（昭和55年 法）
（目黒区中町在住）

退職を機に昨年目黒区に転居してきて事務局よりお誘いをいただき入会しました。

街中や郊外の散歩をすることが好きなのでウォーキング部会に参加しました。同窓の方との交流を楽しみにしています。よろしくお願い致します。

編集後記

定時総会が2年半ぶりに対面での飲食を伴って開催されました。久しぶりの総会の雰囲気を楽しみました。しかし、その数日後には東京の新規感染者数が最大の3万人超えと実にきわどいタイミングでの開催でした。

目黒のサクラについての目黒区の講演で、目黒のサクラの種類などを知り、勉強になりました。いろいろな意味で良い総会だったと思います。

(猪名川 記)